

川霧にはぐくまれる柿・めじろの里づくり事業

取組に至る背景・事業の目的

生坂村草尾地区は、犀川を挟んだ段丘に昔から柿を栽培しており、川の川霧と比較的温暖な気候に恵まれ、先人が育んできた柿があるが、最近が高齢化によって収穫作業が大変になり、収穫もされずに放置されている現状がある。そのため、低樹木栽培で平種なし柿の育成を行い、収穫作業の軽減を図ることを目的とした。

また、労働の省力化を図ることで、現在放置されている柿を生かし、衛生的、かつ高品質のころ柿を生産する事業に取り組むことを計画した。

事業内容

- 柿ほ場造成
荒廃農地を借り受け、平種なし柿を新規で植栽し、低樹木栽培方式による柿園の造成を実施
- 既存の蜂谷柿の活用
高齢者でも作業しやすく、省力で安全な皮むき機を利用し、高品質なころ柿作りを実践
- 品質等安定したころ柿の作成
品質等安定したころ柿の出荷のため、乾燥施設を設置
- 柿剪定講習会を実施



【 柿の加工の様子 】

事業効果

先人が培ってきた伝統のころ柿栽培を復活し、高齢化が進む地域の活性化を図った。未収穫の柿を減らすことにより、猿や鳥獣害等を防ぐことができ、また、荒廃農地を利用することで、農地保全にもつながった。

村内全域から未収穫の蜂谷柿を提供してもらうことで、収穫量の安定化につながり、多くの商品化ができた。

ころ柿作りは、農作業の最盛期が過ぎたころからできる作業であるため、軌道に乗れば農閑期の副業として拡大できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

今後は、遊休荒廃地を活用した柿のほ場を拡大し、低樹木栽培方式の導入により高齢者でも安全に収穫を行うことと、高齢化により管理できない柿のほ場を借り受け管理し、柿の確保を行う。

ころ柿の安定確保のため、保冷库や真空パック機の導入により消費者のニーズに対応できるよう整備を進める。

【選定のポイント】

農家の高齢化、荒廃農地の活用、特産品の開発など、地域における様々な課題に対して、住民が創意工夫をしながら精力的に取り組んでいるモデル性の高い事業である。また、村全域から柿を収穫し干し柿に加工するなど、活動の広がりがみられ、波及効果に優れた事業であり評価できる。

団体名	草尾柿組合	事業タイプ	(ソフト・ハード事業)
連絡先	0263-69-3111 (生坂村総務課)	事業費	1, 294, 038円
		支援金額	874, 000円